

「第11回“本気”で語ろう会」 会議録

団体名	学生と「かのやの未来を語ろう会」
日時	平成26年11月9日（日）10時30分から12時35分まで
場所	鹿屋市役所 市民ホール
参加者	学生（鹿屋高校、鹿屋工業高校、鹿屋女子高校、串良商業高校、鹿屋中央高校、鹿屋農業高校）
	市長、両副市長、教育長、市長公室長、企画監

1 姉妹都市の提携について（鹿屋高校）

提案：国際的分野において注目されている昨今では、海外の都市と協力すること、海外から注目されることへの必要性を感じるため、姉妹都市を結ぶ都市を増やして、交換留学や合同行事の実施を考えてみてはどうか。

例えば、鹿屋と同様の資源を持つ都市との提携が考えられ、世界のバラの有名な都市や、星のきれいな都市、畜産の盛んな都市などと姉妹都市を結ぶとよいと思う。バラ園のバラが枯れた時に、バース市の企業がイングリッシュローズを出してくれたこともあった。「プリンセスかのや」を、世界に向けて輸出しても良いかもしれない。

鹿屋市のイメージに重なる外国の都市と姉妹都市を結び、留学先等として考えれば鹿屋の発展につながると思うので、姉妹都市を結んだ都市にシンパシーを感じてもらい鹿屋に興味をもつ外国の方が増えることを期待したい。

回答：鹿屋市では、今のところ姉妹都市を結んでいる都市はないが、県内には、姉妹都市を結んでいる自治体はいくつかある。姉妹都市を結ぶのもひとつの方法として大切だと思うが、鹿屋にしながら世界と交流できる仕組みを作らないといけない。

今、鹿屋にもCIRや韓国交流員、ALTが数人おり、この方たちが各校を回っている。その他にも鹿屋には外国の方がいらっしゃるので、この方々が母国に帰った後も交流を続ければよい結果に繋がると思う。

また、高隈のアジア太平洋農村研修村（カピックセンター）は今年が20周年であり、ここにもアジアから多くの方が訪れているが、この方々が来たときに地元との交流がないので、この人たちと皆で交流し、鹿屋に対する関心と理解をいただくことが大事である。このカピックセンターと民族館をしっかりと使っていかないといけない。

また、交換留学生在が、鹿屋中央高校に来ているので、関心のある方を集めて6高校で交流の場を作っていくのもよいと思う。提案をいただいたとおり、本市の地域資源と合う都市と交流できるよう、市でも研究していきたい。

回答：鹿屋では、子供時代から英語力をつけるため、英語特区として小1から取り組んでいる。また、その延長として、英語検定などの検定料の補助も実施しており、このような取り組みを本市の売りとしながら、外国とも交流していきたい。

2 若者たちが鹿屋市から減らないように進学先・就職先を増やす。(鹿屋工業高校)

提案：先日、学校の70周年記念行事があり、ある方が来られて話をされた。この方は、最初、柔道の監督をされていたが、選手をもっと増やしたいという思いがあり、監督を退任後大学に進学し、その後自分で大学を作った。一生懸命やったことで結果がついてきた例である。

鹿屋市の高校には、様々な分野に精通した学科があるが、高校卒業後となると、鹿屋市内に専門学校や就職先がほとんどないため、若者たちは市外や県外に出て行くことが当たり前となっている。

そういった若者たちが、この地域から出て行くのを減らすために、専門学校を建設したり、企業との連携を図り卒業後の進路を充実させると良いのではないか。

回答：この地域に、雇用の場を作ることが大事なことだと考えている。

ただ、今のグローバルな時代に、この地域にずっと残るのはどうかという考え方もあり、若いうちに県外に武者修行に出ることも大事であると思う。この地域で頑張りたい人、県外に出たい人、それぞれに選択肢を与えたい。

個人的に思うのは、鹿屋の給与水準は東京・大阪より低いですが、この地に住む価値や夢を見つけることができれば、給料は安くても幸せがあると思う。ただ、雇用の場はあるものの、高校生の皆さんが求める職種と企業の募集がミスマッチとなっている場合もあるので、それぞれの希望がかなうように、一生懸命企業誘致などに取り組んでいる。

また、今インターシップという制度もあるので、皆さんもどんどん利用して、将来性のある会社や自分の思いと重なる会社、やりがいのある企業を見つけてほしい。(インターシップ：学生が一定期間企業などの中で研修生として働き、自分の将来に関連のある就業体験を行える制度。)

特に、本地域の受け皿として雇用が多いのが、医療・福祉・介護で、次が、卸売や小売業である。その次に法人化した農業も増えているので参考にしてほしい。また、鹿児島大学の大学や専門学校に、直行バスで通っている人もいるので、鹿児島市までのアクセスを良くすることや、学割を検討するなどの大きな仕組みを作ること、鹿屋に住みながら鹿児島市に通うなどの選択肢を作りたい。

提案：鹿屋市に25歳以下の若者はどれくらいいるのか。また、多い世代は。

回答：25歳以下の方は26,000人程度で、鹿屋市の人口の25%程度である。

高齢化率は25%位で、4人に1人は65歳以上であり、日本の平均寿命についても、50年前は男67歳、女73歳だったのが、現在は男80歳、女87歳である。また、この地域は出生率が1.9%あり、全国の1.4%に比べてよい数字である。これは、自衛隊や公務員、金融機関などの転勤族が多く、常に若い人たちが来て循環しているからではないかと考えている。

回答：若い世代を増やすためには、子供を生まないといけませんが、経済的に2人も

3人も育てられなかったりする。共働きだと子育てが難しいというのもある。

また、不思議なもので、鹿屋でも田舎の方が子どもが多い。地域では子供が宝であり、地域で子育てを行うことが誇りで、結果的に子どもが増えているのではないかとも感じるが、一方でコミュニティの崩壊や病院がない事などにより、立ち行かなくなっている地域もある。

回答：自分達の世代は、故郷への思いが凄く強かった。故郷に帰ってきたい。帰れないときは遠くからでも鹿屋の応援をしたいと考えていた。

回答：県外で仕事をしている方々には、故郷に対する熱い思いがあると思うので、ぜひこの方達の力をいただきながら、企業誘致など進め盛り上げていきたい。

3 鹿屋市の交通事業に対する意見（鹿屋工業高校）

提案：交通事故防止のための、道路改革・事故防止対策が必要であり、特に、曲がり角や細い路地の草木の伐採。直線道路での自動車のスピードの出しすぎ、運転マナーの問題など対策をとる必要がある。

また、ただでさえ「陸の孤島」なのに、鹿児島市に行くにしてもバスの料金が高く、とても自分達が利用できる状況ではない。

回答：特に高齢者の事故が多いが、高校生の事故も多い。平成25年度では、1割強がバイクや自転車による高校生の事故であり、前方の確認不足や速度違反などが主な内容である。

交通事故については、歩行者や運転する側の安全に対する心がけのほかに、提案のあったインフラの整備も大事であり、鹿屋市も直営班を配置して緊急的な対策をとっている。併せて、かつて整備したインフラが老朽化しているので、計画的に補修を実施し対応している。皆さんが通学路等で気づいたところなども、先生や地域の方を通じて教えていただければ、すぐに対応したい。

次にバスの料金等について、昔は家に車が無く交通機関が頼りであったが、今は1家に1台は車があり、一般の方々は、公共交通の必要性をあまり感じていないのかもしれない。ただ、交通弱者といわれる人たちもいるので、今年の実態調査を行い、コミュニティバスのコースや時間の見直しをして、利便性を高めたいと考えている。

また、鹿児島市への直行便の時刻の見直しなども行ったが、路線バス等の料金の問題については、ほとんどが赤字路線であり、国等の補助を入れているので、この場でどうとは言えないものの、利用し易いように公共機関の利便性を高める努力はしたい。

今年度中に高速道路が鹿屋に来る。これによって福岡も近くなるので、福岡までの直行バス等出来ないか調査をしており、費用対効果を見極めながら、鹿児島市や福岡へのアクセスの向上を考えている。ぜひ期待してほしい。

提案：どうすれば、バス代は安くなるのか。

回答：単純に、利用者が増えれば料金を下げられる可能性もあるが、利用者が少ない状況では厳しい。

回答：利用者は、朝・夕の通学の利用としてはある程度いるので、時間帯など利用者の要望にあわせて走らせたり、ある程度の利用者が揃ったら学校でバスを借り上げて走らせるなど、闇雲に沢山のバスを走らせても厳しいので、きめ細やかに調査をして考えていく必要がある。

提案：鹿屋高校から一番近いバス停は市役所前になるが、場所が遠く、垂水行きだと学校が終わってから30分位は待つことになる。部活をしている人は更に調整が必要なので、どうにかバスを使いやすくできればよいと感じている。

また、バスを待っている学生が多く、歩道まで人が溢れてしまうことがあり、バス停も暗い。

回答：利用者には一般の方や他校の生徒もいるので、時間調整は難しいかもしれない。

回答：学校までの行きは鹿屋高校までバスが行くが、帰りはバス停で生徒さんたちが溢れるようなので、今、話のあったバス停の状況は伝えておきたい。

4 学校間の交流について（鹿屋中央高校）

提案：県内の校名に「中央」が入る高校6校で、CBP（セントラルハイスクール・ボーダーレス・プロジェクト）として交流している。同じように、鹿屋市内にある6校で色々なことを交流したい。

例えば、各学校の特色のある授業を他の学校の生徒が体験したり、年に1回程度、同じ球技で1つの場所に集まり、球技大会を開催するなど良いのではないかと。

また、合同文化祭のようにして、吹奏楽部同士での合同での演奏や、バンドをするのも学校同士の交流につながると思う。

回答：私は、各高校間でそれなりの交流があると思っていたので、交流が少ないことに驚いたが、ぜひ皆さんと高校同士の交流の場を作り上げたい。ただ、市がこうなさいと言うよりは、皆さんや校長先生等を含めて生徒会活動等の中で皆で考えていただければ、後押しをしたい。

鹿児島市は、色々な高校同士で交流をやっており、野球やバレーなど、もの凄く盛り上がる。

鹿屋市でも昔は球技大会があった。特色のある高校が6校もあるので、文化的なものなのかスポーツなのかは分からないが皆で交流し、卒業後もその繋がりが続けられればよいと思う。ぜひ、生徒会の役員が集まりでも作っていただいて頑張ってもらえれば市も応援したい。また、工業高校のロボコンをリナシティで子

供たちに見せたり、高校で連携して農業高校の現場や、中央高校の調理、商業の現場等を見せるのも面白いと思う。

5 イベントに対する提案について（串良商業高校）

提案：野球・サッカー教室の開催や、サブカルチャーなどのイベントが少なく感じる。鹿屋市内でのサブカルチャーや芸術関係、野球やサッカーなどのスポーツ関係のイベントをもっと開催すればよいのではないか。

また、花火大会の開催場所が古江になったことで遠くなり、花火を見るために、バス代等のお金が係り、行きにくくなった。

回答：鹿屋市は色々なイベントを行っているが、高校生向けのイベントは確かに少ない。ただ、大隅半島発のポップカルチャーイベントとして、現代的なイベントも考えており、サブカルチャーのイベント「りなかる！」を実施している。また、12月20日には、文化会館で「メリー☆カオスマス」というアニメソングDJのパフォーマンスやメイドカフェなどのイベントが開催予定である。

高校生意見：それは、素晴らしいことだと思う。

回答：来年の「国民文化祭かごしま」の中で、鹿屋市は「アイドル進化論」というサブカルチャーのイベントを実施予定である。皆さんが知らないところをみると、情報が行き渡っていないのかなと感じるので、お互い双方向に情報を共有していかないといけないし、色々なところで情報提供をしていきたい。鹿屋は色々なイベントは実施しているが中途半端な感じもするので、大きなイベント、小さなイベント共に、メリハリをもって開催したいと思う。

また、スポーツイベントについては、先に出た提案のとおり、皆さんの高校間の交流の中で取り組むことも良いかもしれない。

花火大会については、安全性や駐車場の確保が必要であり、どこでも開催できるというわけではない。皆さんにとって行きやすい場所があればよいのだが。先日は、大隅湖のレイクサイドフェスティバルに行ったが、水中花火やレーザーショーなどあり感激した。花火は、輝北・串良・吾平でもバラ園でもある。イベントは沢山あるので、年間カレンダーのようなものを作るのもよいかもしれない。

回答：皆さんが、イベントなどの情報を得るのはどこなのか。

提案：なかなかほしい情報が得られないので、高校生向けのイベントがあれば、高校にもポスターなどを配布してほしい。

回答：市からの情報が足りない部分もあるかもしれないので、情報発信に力を入れたい。

皆さんが、鹿屋市内で良いなと思うイベントは何かあるか。

提案：焚き火ライブ。それから、中学生が神輿を担いでリナシティを回るのを見た
がそれもよかった。地元の間がイベントを主催できればよいと思う。

6 商業施設の設置について（鹿屋女子高校）

提案：鹿屋は遊ぶところが少ないと思うので、アミュやイオンのような大きなショ
ッピングモールや、ラウンド1やDEPOなどネームバリュのある店が鹿屋にで
できれば、鹿児島市まで行かずに鹿屋の中で人が動いて街の活性化に繋がる。

また、映画の上映時期が、鹿児島市などと比べて遅いため、結局市内まで見に
行くことになり、結果としてリナシティで見る人が少なくなるので、上映時期を
早めてもらいたい。

回答：皆さんが楽しめる場所が少ないのは事実だと思う。皆さんは時間のあるとき
はどこに行っているのか。

提案：学校の農場、カラオケ、図書館などである。

回答：鹿児島市ならどこに行くのか。

提案：ラウンド1、アミュ、天文館、イオンモールなど。

回答：鹿児島市は60万人の人が住んでおり、周りの市町も入れると100万人単位の
人がいる。一方、鹿屋は10万人で、大隅全体でも24万人程度の人口であり、こ
の中で商業施設が出来るかという、経済的に厳しいと感じる。ただ、そういつ
た施設として出来た施設の一つが、鹿屋ではリナシティになるのかなと考えてい
るが、皆さんはリナシティには行かないのか。

提案：あまり行かないが、友人同士で見たい映画等があれば行ってみたい。

回答：この施設に、出会いや賑やかさがほしいが、高校生の皆さんが行かないのは
寂しい気がする。鹿屋に足りない施設は何だと思うか。

提案：サブカルチャー専門店、イオンモール、参考書が揃うような大きな書店など
があるとよいと思う。

回答：高校生が生活するのに、必要な機能をそろえないといけないが、本屋もそう
だが、図書館が街中があればいいなどは思っている。

リナシティの中にも様々な施設があるので、皆さんもリナに行ったときは色々

見て回ってほしい。生徒会などで、リナシティツアーのようなものをしてもらっても面白いと思う。

7 農業で交流を深めよう!! (鹿屋農業高校)

提案：色々な方々に農業の楽しさを知ってほしいので、農業高校に市内の高校生等を招いて、農業体験をしてほしい。併せて、市内の使われていない畑を使って、市民の方々や鹿児島市の方々などの交流の場として使えないか。

また、鳴之尾牧場を、観光や教育にもう少し活用できないか。

回答：地域に使われていない田畑が沢山ある。そういったところを市民に開放するのは素晴らしいアイデアなので、耕作放棄地の施策と併せ、ぜひ研究したい。それとは別に、鹿屋市でも市民農園というのを2箇所開放しているので、これも吾平や串良などに増やしていければよいと思う。

鳴之尾牧場については、映画のロケ地になったこともあり、ぜひ活用したいと考えているが、基本的には観光施設ではなく、牛を預託する施設であり、登山口でもあるので、道路の整備や施設の老朽化問題も考えながら、高隈山の活用の一つとして考えていきたい。観光と畜産振興の中で制約もあるが、検討してみたい。

また、農業高校に人を招き入れるのも素晴らしいアイデアだと思う。今日、皆さんの話を聞くと、ほとんど学校間の交流が無いようなので、スポーツ・文化交流を含めて、農業高校や各校に入りコラボしていければよいと思う。農業高校では、農産物の販売も行っているが、どんな状況か教えてほしい。

提案：週2回実施しており、沢山のひとが来ている。

回答：例えば、各校協力して、高校生レストランのようなものを開いてもよい。農高が食材。中央が調理。その他の高校で会計や配膳等行い、年に1度でもイベントが開ければ面白い。地元の高校生が頑張れば、みんな応援してくれると思う。

8 その他

提案：なぜ、鹿屋には鉄道がないのか。

回答：以前は、鹿屋にも鉄道があったが、赤字で経営が難しく廃止となった。当時、駅はこの市役所の場所にあり、確かにその頃は賑やかだったが、国策ということで廃止された。ただ、廃止はやむを得ないが、そのかわりに道路の整備をするとの話もあったらしい。しかし、財政状況のこともありなかなか進まなかったのではないかと思う。

鹿児島市内の人が鹿屋に来ると2時間かかる。それなら、山口県まで行っても2時間である。そう思うと、確かに色々考えてしまう。

話は変わるが、中央高校の調理コースの皆さんは卒業後はどちらに就職されるのか。

提案：県外が多い。

回答：県外で修行したのち、ぜひこの地に帰ってきてほしい。

回答：本日は、高校生目線で色々と話をいただいた。私としては、皆さんに「鹿屋ってこんなところがいいよね」と考えてほしいと思っている。県外に出たときこそ鹿屋のよさを考えてほしい。

故郷のよさは住んでいると分からないことも色々ある。都会は、遊ぶところやショッピングするところ。食べる場所などが沢山あるが、鹿屋のよさにも、ぜひ目を向けていただきたい。

ふるさと鹿屋への熱い思いを持っていただきながら、頑張してほしいと思う。